



# なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が  
あふれる 長幡小学校  
令和7年 2月 3日  
第 26 号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数：151冊 1冊以上提出した児童数：58名 1月29日現在

## 不審者から身を守る

1月24日（金）、学校に不審者が侵入したことを想定した避難訓練を行いました。不審者が2階まで侵入したところを、数名の職員が刺股で取り押さえる訓練を行いました。（下の写真）その後、全校児童を体育館へ避難させ、本庄警察職員より、「いかのおすし」等の指導・助言をいただきました。（右の写真）

1月22日には、長野県でバスを待っていた男の人が見知らぬ人から刺されて死亡する事件が起きたばかりです。いつ・どこで・何が起きるか分からない中で、私たちは生活をしていることを改めて感じました。危機意識を喚起しながら、子供たちの安全確保に努めてまいります。



5つのお約束！ やくそく あんしん とろけこ 安心して登下校

### 「いかのおすし」

- しらないひとには、ついて **いかない**
- こえをかけられても、くるまには **のらない**
- しらないひとにつれていかれそうになったら **おおごえをだす**
- こえをかけられたりおいかけられたりしたら **すぐにげる**
- こわいことにあったりみたりしたら、すぐにおとなに **しらせる**

心のスイッチ

人間の目は ふしぎな 目  
見ようという心がなかつたら  
見ているも見えない  
人間の耳は ふしぎな 耳  
聞こうという心がなかつたら  
聞いていても 聞こえない

頭も そうだ  
はじめからよい頭 わるい頭  
の区別があるのではないよう  
だ

「よし やるぞ！」と  
心のスイッチがはいると  
頭も  
すばらしい はたらきを  
しはじめる

心のスイッチが 人間を  
つまらなくもし すばらしく  
もしていく  
電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし  
暗くもするように

教育者  
東井 義雄



# 子供が変わる

1月28日、児玉地区教育委員会連合会が主催する研修会がありました。発達障害傾向児童生徒に対しての支援の仕方について、群馬大学の添島康夫先生が話をしてくださいました。

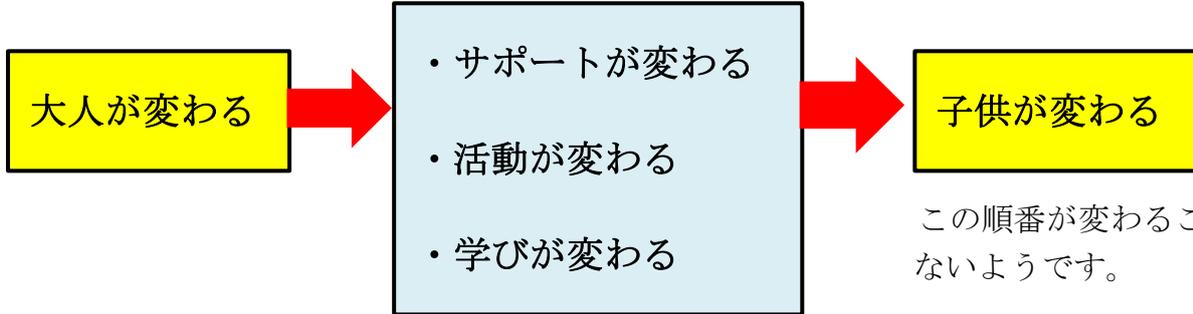
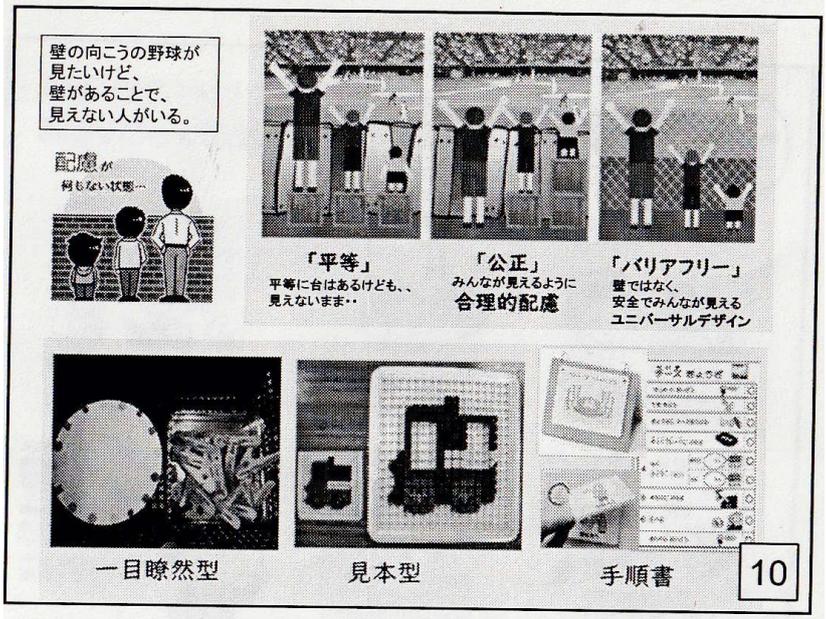
【2つの視点からの工夫が大切】

① ユニバーサルデザイン～より多くの子への工夫 バリアフリー

② パーソナルデザイン～その子ならではの工夫 合理的配慮

(右の資料参照：添島先生作成)

【まずは大人(親・教師)が変わること】



この順番が変わることはないようです。

子供は、大人をモデルとして、影響を受けながら成長していきます。大人(親、教師、地域住民)の存在は大きいものです。“子供は親の言うとおりに育たず、親のするとおりに育つ”とも言われています。

# 学び合い

1月30日、今年度最後の授業研究会を開催しました。

5年1組担任 松田教諭

による算数:「台形の面積の求め方を考えよう」の授業を全職員で参観し、よりよい指導方法等について研究協議を行いました。(下の写真)

児童らは、グループになり、台形を切ったり貼ったりしながら台形の求め方を考えていました。

1時間中、児童の集中力が途切れることなく授業が展開されていました。さすが5年生!



考え方を発表し、全員で共有します。



指導者として「学びの共同体研究会スーパーバイザー」の谷井茂久先生に参加していただきました。